

# コロナ禍における大学博物館の社会教育のための取り組み — おうちでせいなんワークショップ —

山尾 彩香

## はじめに コロナ禍における影響

新型コロナウイルス感染症の流行により、日本では2020年2月に文化イベントの自粛要請が出され、国立博物館等の臨時休館、イベント等の中止・延期等が相次いだ。同年4月には7都府県<sup>1</sup>に緊急事態宣言が出されたのち、宣言の対象は全国に拡大された。

西南学院大学博物館では、2020年4月4日から8月2日までを臨時休館とし、以降も感染状況や運営母体である西南学院大学の方針に合わせて臨時休館や事前予約制、来館者制限などを実施した。展示事業に関しては会期の短縮、開催延長、講演会やイベントの中止を行った(表1)。

新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年度と流行が顕著となった2020年度の開館日数と来館者数を比較すると、開館日数は2019年度が288日に対して2020年度が169日の約4割減、来館者数にいたっては2019年度が8474名に対して2020年度が990名の約9割減となった(図1)。文化庁委託事業による全国の博物館を対象とした調査<sup>2</sup>によると、来館者数の平均の推移は2019年度から2020年度にかけての前年度比が約46.1%の落ち込みであったことから、西南学院大学博物館はとくに顕著な影響を受けた博物館といえるだろう。

### ▶ 博物館の閉館 (2021年12月15日時点)

対応	期間	備考
臨時休館	2020年4月4日～8月2日	
臨時休館	2021年1月16日～2月9日	
臨時休館(予約制)	2021年5月12日～6月20日	事前予約制(電話予約者のみ入館可)
予約制開館(一部例外)	2021年6月21日～7月13日	事前予約制(西南学院大学の学生および教職員は事前予約の必要なし)
臨時休館(予約制)	2021年8月20日～9月12日	事前予約制(例外なし)

### ▶ 展示事業

対応	展覧会	会期	イベント等
短縮	企画展「文化財とともに生きていく—ドージャー記念館 次の100年に向けて—」	2020年2月3日～4月9日 →会期終了4月3日	公開講座「ステンドグラスの修復・その技術と理念」(3/14)の中止
延期	企画展「黒木重雄—絵を描くという生き方—」	2020年4月13日～7月11日 →延期10月3日～12月18日	トークイベント(5/23)の中止
延長	特別展「地図を描く—伝えられた『日本』—」	2020年12月23日～2021年2月27日 →会期終了2021年4月14日	

表1 新型コロナウイルス感染症による影響と対応

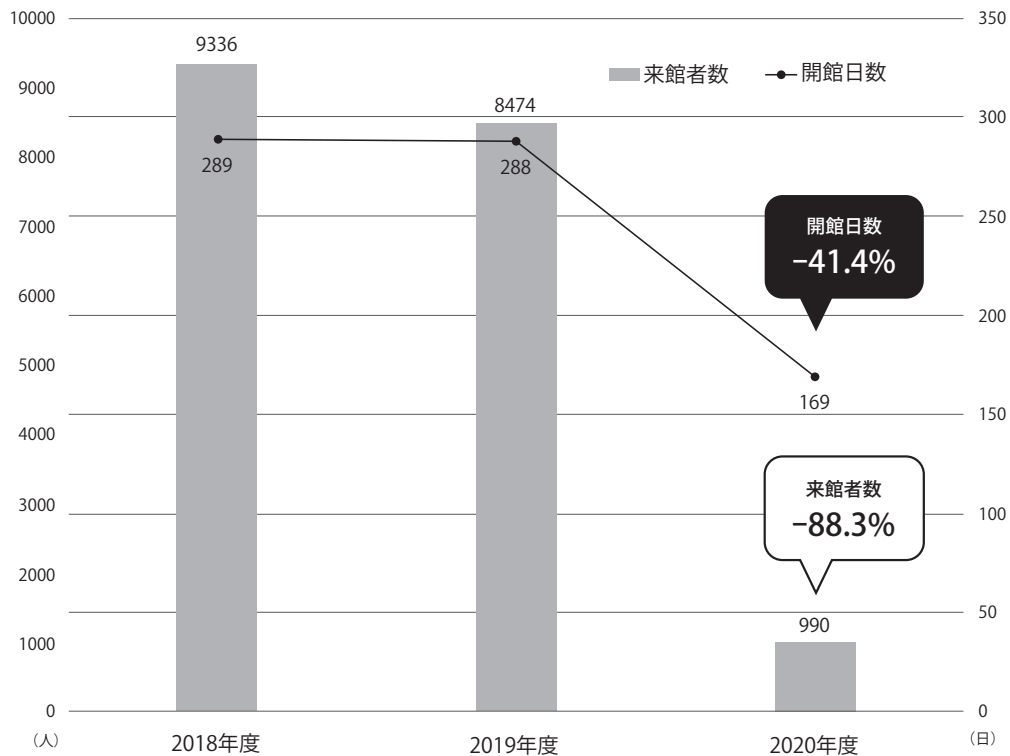


図1 開館日数と来館者数の推移

## 1. これまでの「せいなんワークショップ」

博物館には果たすべき役割が大きく分けて三つある。それは「収集・保存」、「調査・研究」、「教育・展示」だ。とくに「教育・展示」に関しては、博物館における表立った機能でもあることから、社会教育施設としての一般認知度は高いだろう。

西南学院大学博物館は2006年に開館し、2010年に博物館相当施設に指定された。この年、本格的な教育普及事業として「せいなんこどもワークショップ」<sup>3</sup>と銘打った活動が始まった。本取り組みは当初、大学周辺の小学生を対象としたものであったが、十年以上にわたる活動のなかで、他県などの館外で開催する「おでかけワークショップ」や大人向けの「せいなんワークショップ」など、地域や年齢を限定しない活動へと展開していった。現在では、定期的で開催する展覧会の教育プログラムとしても定着している。

ワークショップでは「楽しみながら学べる」をコンセプトに、基本的な活動内容として、①学芸員や博物館スタッフによる展覧会の解説や講座、②展示

内容に沿った工作やレクレーションを行う二部構成となっている。ワークショップを企画・運営するにあたって活躍するのが、博物館スタッフとして雇用している学生アルバイトや学生ボランティアといった西南学院大学・大学院の在学生たちだ。一般の博物館とは主旨の異なる大学博物館においては、学生教育もまた一般市民を対象とした生涯学習に並ぶ重要な使命となる。また、ワークショップを通じての学生と地域住民との交流の場の提供は、「社会に開かれた大学の窓口」としての大学博物館の役割を果たすものでもある。だがしかし、参加者主体の体験を重視するこれらの活動は、対面・対話によって支えられていた活動でもある。2020年以降、対面によるせいなんワークショップの開催は2021年12月現在まで実現していない。

博物館における最大の教育機能は展示にある。せいなんワークショップも、展示による学びを重視して構成されているのは先に述べた通りだ。しかし、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が2020年4月に全国に拡大されると、ほとんどの博物館が休館<sup>4</sup>を余儀なくされ、博物館における展示教

育の機会が大きく失われた。このとき、光明をもたらしたのがインターネットを介した教育普及活動だった。博物館が休館していても、家庭で博物館の学びが得られるようにと、学習のためのデジタルコンテンツを企画、提供する動きが全国の博物館で活発化したのだ。西南学院大学博物館でも既存のデジタルアーカイブを活用し、オンラインでの情報発信に取り組んだ。

## 2. 土台となったデジタルアーカイブ事業

デジタルアーカイブとは「図書・出版物、公文書、美術品・博物館・歴史資料等公共的な知的資産をデジタル化し、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み」<sup>5</sup>をいい、インターネットが社会基盤として欠かせない時代となった昨今において、博物館でのデジタルアーカイブ事業の推進は重要な取り組みのひとつとなっている。

西南学院大学博物館では、2017年度よりデジタルアーカイブ事業の一環として、博物館が所蔵する資料の一部をデータ化し、ホームページで所蔵資料データベース<sup>6</sup>として公開している。データベースでは西南学院大学博物館のコレクションの三本柱である「日本キリスト教史関連資料」「キリスト教文

化関連資料」「関谷定夫コレクション」と平戸藩のあづち おおしま的山大島に関する史料群「松澤氏収集文書」を公開し、各資料の詳細（所蔵機関、コレクション名、資料番号、表題、年代、形態、内容）や資料画像を閲覧することができる（図2）。

また、2019年度には大学の教育支援プログラムでデジタル・アーキビスト養成<sup>7</sup>を実施した。本教育プログラムは、大学博物館が雇用している学芸調査員（学部生・院生アルバイト）を対象とし、デジタルアーカイブに関する専門知識の習得と実践経験を通じて、次世代のデジタル・アーキビストを養成することを目的としたものである。受講者は博物館教員によるデジタルアーカイブに関する基礎知識の教育を受けたのち、NPO法人日本アーカイブ協会が提供する4日間の教育プログラムを受講。同協会が実施する検定試験にのぞみデジタル・アーキビスト資格を取得した。資格取得後は、デジタルアーカイブ事業の実践として、西南学院大学博物館の所蔵資料データベースの拡充に従事した。

所蔵資料データベースのほかにも、ホームページでは過去の展覧会で刊行された図録や博物館ニュース、年報、研究紀要などの刊行物をPDFで公開している。また、Googleが提供するインターネットサービス「ストリートビュー」を活用し、常設展示



図2 西南学院大学博物館所蔵資料データベース

室およびドージャー記念室をパノラマで閲覧できるページも2016年よりホームページに設置した。

デジタルアーカイブ事業によるこれらのデジタルコンテンツの拡充は、コロナ禍における博物館の教育普及活動に大きく貢献することとなる。

### 3. SNSでの教育普及活動

2020年4月、最初の緊急事態宣言を受けての臨時休館では、西南学院大学博物館のほとんどの職員が在宅勤務となり、博物館での活動が長期間休止となった。休館中でも博物館の社会的役割や教育機能を果たすにはどうしたらよいのか。この時期、西南学院大学博物館だけではなく全国の博物館が直面した課題は、オンラインでの博物館活動に解決の活路を見出した。

西南学院大学博物館のオンラインでの情報発信の主要な場はホームページであった。しかし、博物館ホームページのサーバーは外部からアクセスができない仕様のため、在宅勤務の博物館職員はホームページの更新を行うことができない。ホームページを主流にしたオンラインでの情報発信は、当時の環境では困難であったのだ。そこで、博物館の臨時休館中のオンライン活動は、ホームページからソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）へと移行することとなった。

西南学院大学博物館では、2012年からTwitter（seinan\_museum）とFacebook（seinanmuseum）、2017年からInstagram（seinan\_museum）を運営している。タイムリーな短文投稿と不特定多数への拡散を特徴とするTwitterでは、展覧会やイベントなどのお知らせや、博物館スタッフによるタイムリーなつぶやきなどを行い、運用しているSNSのなかでは一番の更新頻度を誇る。画像付きの長文投稿が可能で、实名制のため比較的フォーマルな印象のあるFacebookでは、博物館事業や専門性の高いコラム（博物館実習の報告や所蔵資料の解説など）を定期的に更新。若年層をターゲットとするInstagramでは、ビジュアルを重視した画像投稿を心がけてき

た。外部からでも更新が可能なこれらのSNSは、休館中でも「見える博物館」の場として活躍した。なにより、SNSの特性のひとつである「ユーザーからの反応の可視化」の恩恵も大きかった。この相互的に「見える」状況は、利用者が博物館にどのような情報やサービスを求めているかを検証することを可能にし、博物館運営や教育普及活動の方針に生かすことができるからだ。

SNSでのオンライン活動では、ホームページ上で公開していた既存のデジタルコンテンツを最大限に活用した。また、学芸調査員によるコラム連載を実施することで、学生教育や雇用の機会も創出した。以下、臨時休館中にSNSで行った教育普及活動の事例である。

#### ・ ジョージくんクイズ（Twitter）全42回

期間：2020年4月8日～6月11日

臨時休館を実施してから4日後、博物館の所蔵資料に関するクイズを出題する「ジョージくんクイズ」の連載をTwitterで開始。教育普及担当の学芸研究員が更新を担当し、土日を除くほぼ毎日投稿した。クイズの基本構成は①クイズの出題、②クイズの答え、③デジタルアーカイブ・サービスへの誘導とし、リプライで一連の投稿をつないでいる（図3）。

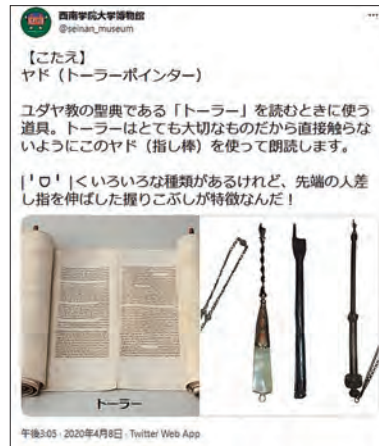
ジョージくんとは、福岡県指定有形文化財でもある博物館建物をモチーフにしたマスコットキャラクターで、名前は建物の建築様式「ジョージアン・コロニアル・スタイル」に由来する。不特定多数に向けて発信されるTwitterの特性を鑑み、マスコットキャラクターを起用することで親しみやすさを演出した。出題するクイズの資料画像は、所蔵資料データベースの資料画像や無料公開している図録の画像などを使用し、解説も専門性よりも簡潔でわかりやすさを重視したものとなっている。その代わりに、より専門的な知識を得る手段として、資料のデータベースや関連書籍（図録や刊行物）などへの誘導も行った。この時期、全国の博物館がオンラインでの情報発信<sup>8</sup>や教育普及活動を始動、発展させており、





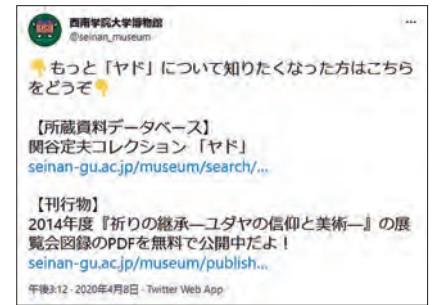
①クイズの出題

ジョージくんによるクイズの出題と解説員によるヒント。クイズの資料画像を掲載。



②クイズの答え

ジョージくんと解説員による資料の解説。



③デジタルアーカイブ・サービスへの誘導  
博物館ホームページで公開している所蔵資料データベースや図録（刊行物）へのリンク。

図3 ジョージくんクイズ (Twitter)

そういった他館からの活動の呼びかけにあったハッシュタグ「#エア博物館」「#おうちでミュージアム」も活用した。ハッシュタグの利用は、博物館と市民とでの相互の情報の発信や共有を可能とすることから、新たな取り組みとしても注目されている<sup>9)</sup>。

・聖書植物園ツアー (Twitter)

2020年6月9日~更新継続中 (2021年12月15日現在)

臨時休館中ではあるものの、博物館職員の出勤が一部解除となった6月から「ジョージくんクイズ」の後続企画として「聖書植物園ツアー」の連載をTwitterで開始した。更新は教育普及担当の学芸研究員が行い、季節の聖書植物の写真や聖書植物についての情報を不定期で発信している。投稿の基本構成は①聖書植物の写真、②聖書植物の詳細、③聖書植物の解説、④聖書植物園の情報となっている (図4)。

聖書植物園とは、西南学院大学の敷地内で展開している聖書に登場する植物を復元・展示した植物園<sup>10)</sup>である。「聖書植物園ツアー」の連載当初の目的のひとつは、大学への入構禁止・制限により現地で観察することができない来園者に代わり、聖書植物の生体の様子を発信することにあった。静物であ

る博物館資料とは異なり、植物という生体の特性上、季節や日ごとに生育し変化する植物は繰り返し紹介することも可能である。そのため本企画は、Twitterのユーザーからの好評もあり、臨時休館後も更新を継続している。

・スタッフのオススメ図録 (Facebook) 全12回

期間：2020年4月20日~5月2日

Facebookでは学生アルバイトの学芸調査員によるコラム連載を実施した。臨時休館特別企画第一弾は、これまで博物館で刊行された展覧会図録を博物館スタッフの目線で紹介する「スタッフのオススメ図録」である。学芸調査員が持ち回りで担当し、12日間連続で更新した。構成は①スタッフのつぶやき、②図録の書籍情報と要約、③オススメポイント、④刊行物のページリンク、⑤図録の画像となっている (図5)。

・壺週逸品 (Facebook) 全12回

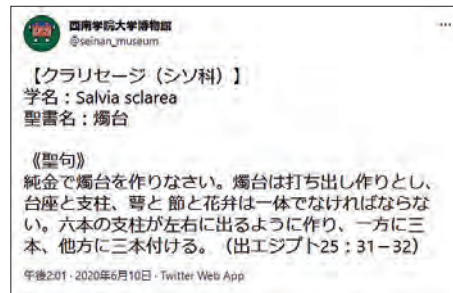
期間：2020年5月9日~7月24日

臨時休館特別企画の第二弾も学芸調査員による連載で、「壺週逸品」と題して毎週土曜日に所蔵資料一点を紹介した。構成は①スタッフのつぶやき、②



① 聖書植物の写真

聖書植物の最新写真とジョージくんと解説員によるコメント。



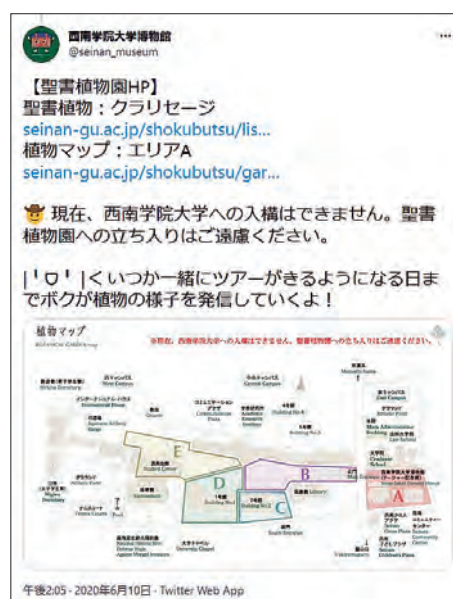
② 聖書植物の詳細

植物の学名とともに、聖書での名前と植物が登場する聖書の句を紹介。



③ 聖書植物の解説

解説員やジョージくんによる植物の解説や豆知識



④ 聖書植物園の情報

図4 聖書植物園ツアー (Twitter)



**西南学院大学博物館**  
2020年4月20日

【臨時休館特別企画 スタッフのオススメ図録①】  
みなさん、こんにちは～！学芸調査員です。いかがお過ごしでしょうか？私は日々ご飯を何にするか悩み、ついにはメニューが固定化してきました。小松菜とバナナが安いのでミキサーにかけて飲んでます。案外見た目緑なので野菜取れた気になっておすめです。あとは久しぶりにホットケーキを食べたらものすごく美味しかったのでひたすら焼いています・・・🍞（そろそろ本題に移りましょう）

現在、西南学院大学博物館は臨時休館中ですが、SNSは日々更新中です。  
臨時休館中の特別企画として、本日より、過去に開催された展覧会の図録をご紹介します。  
一部の図録は大学博物館ホームページで読むことができますので、興味があれば是非アクセスしてみてください。

本日の紹介図録  
『祈りの継承—ユダヤの信仰と美術—』  
刊行年：2014年  
編集：安高啓明 内島美奈子  
発行：西南学院大学博物館

かつて、祖国を失ったユダヤ教を信仰する人々は、信仰を拠り所にし「かたち」にしました。それらは「ジュダイカ」と呼ばれ、ユダヤ教の家具などを含む文物一般を総称するものです。ジュダイカはユダヤのひとびとの生活に根ざした一方で、尊敬の対象として特別な装飾が施され、美術工芸品として高い評価も得ています。そのようなジュダイカを通して、ユダヤ教の理解を深めてみませんか？

序章 ユダヤの美術  
1章 信仰のかたち  
2章 彩られた祝祭と儀礼  
3章 安息日の祈り  
終章 ともし火の系譜—聖書考古学

オススメポイント  
本当に繊細な装飾が多く、見ているだけでもいいですが、解説と合わせて見ることでよりユダヤ教の祭りやユダヤ教のひとびとの生活が垣間見えます。そのなかでも私が好きなものは「18. エトログ容器」です！これはスコットという祭で、エトログというレモンのような柑橘類を保存するために使われるものなのですが、本当に見た目可愛いのです。さらに、エトログは西南学院大学聖書植物園でも見ることが出来ます。毎年夏頃には大きな実を付けていますので、お立ち寄りの際は是非見てみてくださいね。  
さて、スコット祭のときは、家庭では庭やベランダに仮庵（スカー）を作って7日間そのなかで食事をしたりして過ごすようです。これは、イスラエルの民が約束の地に到達する前の放浪時代に仮庵に住んでいたときのことを想起するためであるそうです。Googleなどで調べたらすぐに出てくると思いますが、この仮庵の形も多種多様で素敵です。いつか現物を見てみたいものです・・・🍋。ぜひ、この図録を読んだあとにエトログやスコット、仮庵についても調べてみてください！



図5 スタッフのオススメ図録 (Facebook)

**西南学院大学博物館**  
2020年5月9日

【臨時休館特別企画Ⅱ 春週逸品①】  
みなさんこんにちは、いかがお過ごしですか？調査員です。ゴールデンウィークはなにをされましたか？私は家で料理をしたり、本を読んだりしていました。まったく外に出なかったゴールデンウィークは自分史上初かもかもしれません。

さて、先日お知らせしたとおり、引続き西南学院大学博物館は休館することになりました。  
休館中の企画として、先月は調査員から図録の紹介をする企画を行ってきましたが、今週からは調査員が西南学院大学博物館所蔵の「お気に入り」を紹介する「春週逸品」という企画をやっていきたくと思います。毎週一品ずつ紹介いたしますので、楽しみにお待ち下さい！  
本日は、調査員のお気に入りをご紹介します！

『スパイス・タワー』  
製作地：テルアビブ（東欧）  
製作年：不明  
形態：銀製  
所蔵：西南学院大学博物館

スパイス・タワーは、ユダヤ教における安息日に使用されます。ユダヤ教における安息日は毎週土曜日。安息日の最後に、今日がいかにかぐわしく快い一日であったかを想起するため、スパイス（香料）をくゆらす儀式があります。スパイスには通常ミルトスの葉が使用されます。スパイスの芳香を吸い込みながら、祝福の言葉を唱えます。

スパイス・タワーにはいろいろな形があって、職人さんによって様々な工夫が凝らされるようです。このスパイス・タワーでスパイスをくゆらせて、安息日の終わりを「香り」と共にゆったりと迎える時間は素敵だと思います。今回選んだスパイス・タワーは装飾も綺麗で、見ているだけでも癒やされませんか？ストレスの溜まる日々が続いていますが、「香り」で癒やしの時間を作るのでもいいかもしれませんね！

それでは、今週の紹介はそろそろ終わりたいと思います。  
来週はどんな逸品が紹介されるのか楽しみですね！  
読んでいただき、ありがとうございました。

図6 春週逸品 (Facebook)

資料詳細と解説、③スタッフの資料に対するコメント、④資料画像となっている(図6)。所蔵資料を紹介するTwitterの「ジョージくんクイズ」とは差別化をはかり、30~40代の利用者が多い<sup>11</sup>Facebookではより専門性の高い内容を掲載した。

#### 4. おうちでせいなんワークショップ

2020年6月、博物館職員の出勤が許可されるようになり、博物館ホームページの更新ができるようになった。これを機に、臨時休館を継続しながらも、それまでSNSだけで行っていたオンライン活動をホームページにも拡充した。それが「おうちでせいなんワークショップ」<sup>12</sup>である。おうちでせいなんワークショップでは、博物館への来館を前提とする展示教育とは別の教育手段として、博物館の学びを家庭でも学習・体験することを目的としている。また、公開する学習コンテンツの作成には学芸調査員も携わっている。通常の博物館業務で必要となるデザインや映像制作で使用するアプリケーションソフトの技術習得や、アイデアを形にする企画力や制作能力を養うなど、せいなんワークショップでも重視していた実践的な学生教育の面も担っている。

おうちでせいなんワークショップ開設の契機のひとつとして、北海道博物館(北海道)の「おうち

ミュージアム」の取り組みがある。おうちミュージアムとは、新型コロナウイルスの感染拡大のため2020年2月末より全国各地の小中学校などが臨時休校になったことをきっかけに、北海道博物館が3月よりはじめた取り組みである。それは、同時期に多くの博物館が長期の臨時休館となるなか、「おうちで楽しく学べる」をコンセプトに、自宅で過ごす子どもたちのために各地の博物館と共にオンラインで学習コンテンツを提供する連携活動であった<sup>13</sup>。2021年12月時点で、230以上<sup>14</sup>の館が本企画に参加しており、西南学院大学博物館も2021年6月より参加を表明している。

ホームページに新設したおうちでせいなんワークショップ専用のウェブページでは、せいなんワークショップの「楽しみながら学べる」のコンセプトをそのままに、過去の展覧会で開催したワークショップをアレンジしたものから、おうちでワークショップ限定の学習コンテンツを公開している。例えば、在宅勤務期間中に準備していた幼児向けのワークシート「ジョージくんのわくわくパズル」(図7)と「ジョージくんぬりえ」は、臨時休館直前まで館内で実施していた常設型のワークショップ<sup>15</sup>を家庭用にアレンジしたものである。以下、おうちでせいなんワークショップにて公開している学習コンテンツの一部を紹介する。



館内に常設されているマグネットパズル(左)を、はさみとのりを使って完成させる幼児向けパズルにアレンジした家庭用ワークシート(右)

図7 ジョージくんのわくわくパズル





図8 聖書植物ビンゴシート ー身近なもの編ー

・聖書植物を学ぶ「聖書植物ビンゴシート」

「聖書植物ビンゴシート ー身近なもの編ー」（図8）は、おうちでワークショップ専用のワークシートとして7月に公開した。本ワークシートの作成のきっかけは、当時Twitterで発信していた「聖書植物園ツアー」だった。というのも、想定以上のユーザーが聖書植物や聖書植物園に高い関心をもっていることに気付いたからだ。本来であれば、聖書植物園を散策しながら行う屋外型のワークショップを提供するのだが、大学への入構が制限されるコロナ禍では実施が難しい。そこで、体験の場を聖書植物園から家庭に移し、家や身近にあるものなどで聖書植物を探すことにしたのだ。

ワークシートには9種類の聖書植物の画像がビンゴ形式に配置されている。植物だけでなく、食べ物や加工品などになった聖書植物を見つけ出して、発見したときの様子を書き込み、ビンゴを目指す。一見、馴染みのない聖書植物でも、生体そのものの姿だけでなく、本来とは異なる姿で身近なところに存在しているのだという発見は、家庭で行うからこそのものであり、聖書植物への親近感も演出してくれる。

・歴史を学ぶ「九州の今と昔」

博物館資料を活用した学習コンテンツとして歴史を学べるワークシートがある。「九州の今と昔 ー九州九カ国之絵図ー」（図9）は、江戸時代の九州の地図「九州九カ国之絵図」（1783）と現在の九州地図とを比較し、江戸時代に九州にあった9つの国が現在の何県になるかを解答する日本史の学習シートだ。資料紹介シートと資料に関連する問題シートで構成された本ワークシートの形式は、後続の「アジアの今と昔 ーアジア図ー」にも引き継がれシリーズ化している。

・動画で学ぶ「ジョージくんミュージアムガイド」

2020年の臨時休館が9月に終了した後でも、感染拡大により2021年にもたびたび長期の臨時休館（表1）を実施した。そのようななかでも、予約制度の導入や感染症対策を施したうえでの展覧会を開催したが、2021年度上半期（4月～9月）の来館者数は、コロナ以前の2019年度の上半期に比べて3割<sup>16</sup>にまで減少した。コロナ禍の影響で、展示による教育効果が十分に望めない状況が依然として続いている。



図9 九州の今と昔 九州九カ国之絵図

た。そこで新たな取り組みとして、全国の博物館のオンライン活動でも主流になりつつある動画による展示解説の投稿をYouTube<sup>17</sup>で開始した。動画は開催中の展覧会をジョージくんが案内する内容で、学芸員や展示担当者の監修のもと制作している。動画制作による活動は今後、新たなデジタルアーカイブ事業として拡充を目指したい。

### ・せいなんワークショップとの連動

博物館で開催しているせいなんワークショップを、おうちでせいなんワークショップでも同時に提供する試みも行った。「出島の出入許可証を書いてみよう！」(図10)は2021年度特別展「長崎口と和華蘭文化 —異文化のさざ波—」の関連ワークショップとして、会期中(2021年9月1日~11月4日)、館内に常設された自由参加型のワークショップである。参加者は、展示資料の「長崎阿蘭陀商館出入許状」(江戸時代中期)を模した許可証に、奉行として役職と名前と日付を書き込み、判を押してオリジナルの出島の出入許可証を作成する。本ワークショップと同じ内容を家庭でも出来るように、説

明シート、資料解説シート、ワークシートを別途作成し、おうちでせいなんワークショップでも公開した。展示教育とオンライン教育の同時提供は、展示教育の機会喪失やデジタルディバイドの解消になんらかの希望が見いだせないかとも期待している。

### さいごに ポストコロナ時代にむけて

コロナ禍、そしてその先のポストコロナ時代にむけて、大学博物館が社会教育施設としての役割を果たすにはどうすればよいのか。先行きの見えない状況ではあるものの、新型コロナウイルス感染症と付き合いながら博物館活動を再開、さらには発展させるような工夫や新規事業が全国の博物館で見られるようになってきた。オンライン講演会<sup>18</sup>や公演・展覧会・社会教育活動のライブ中継や配信、リモートによる情報交換会や研修会、バーチャル展示やVRコンテンツ、デジタルアーカイブの推進など様々な取り組みが行われている。西南学院大学博物館は、「生涯学習のための社会教育施設」としての博物館であると同時に、「学生教育と社会に開かれた窓口」





館内常設型ワークショップ（左）とオンライン学習用のワークシート（右）

図10 出島の出入許可証を書いてみよう！

としての大学博物館の使命も帯びている。来館者の数が特別な意味をもたなくなるであろうこれからの時代、市民や学生にどういった「展示・教育」の機会を提供していくのか。コロナ禍が収束した後も、新しい博物館の教育普及活動としてオンライン活動を継続さらには発展させていく必要があるだろう。

註

- 1 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県。西南学院大学博物館は福岡県所在。
- 2 みずほ総合研究所株式会社「令和2年度「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」における「博物館の機能強化に関する調査」事業実績報告書」2021年3月、<https://www.mizuho-ir.co.jp/case/research/museum2020.html> (2021年12月1日閲覧)
- 3 せいなんこどもワークショップの目的や取り組みの詳細については以下を参照されたし。山尾彩香「大学博物館の使命としての教育普及活動—せいなんこどもワークショップ事例紹介と課題—」『西南学院大学博物館研究紀要』第5号、pp.9-23、西南学院大学博物館、2017年。
- 4 全国に緊急事態宣言が拡大した2020年4月16日時点で、日本博物館協会会員館の推定約9割が臨時休館となった（日本博物館協会調べ）
- 5 総務省「知のデジタルアーカイブに関する研究会開催要項」2011年2月、[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000101009.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000101009.pdf) (2021年12月15日閲覧)
- 6 西南学院大学博物館所蔵資料データベース、<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/search/museum/>
- 7 西南学院大学の教育推進機構による2019年度の教育支援プログラム(B)「大学博物館における『デジタル・アーキビスト』養成プログラム—資格取得とデジタルアーカイブ事業の実践を通じて—」、[https://www.seinan-gu.ac.jp/education\\_research/gp.html](https://www.seinan-gu.ac.jp/education_research/gp.html)
- 8 日本博物館協会の実施したアンケート（令和2年9月1日～9月15日実施）によると、休館中のWEB等による博物館情報の発信について

- 実施した館は709館中511館となり、七割以上の館がオンラインでの情報発信に注力している。日本博物館協会「新型コロナウイルス感染予防の対応状況に係る緊急アンケートの結果について」2020年10月26日、<https://www.j-muse.or.jp/> (2021年12月15日閲覧)
- 9 休館した博物館施設のSNSで使用されたハッシュタグは他にもあり、収蔵資料や生体の紹介や解説を行う例が多くみられた。室井宏仁、奥本素子「COVID-19感染拡大下における博物館施設のオンライン発信の傾向と分析」『科学技術コミュニケーション』28巻、pp.1-10、北海道大学、2020年。
  - 10 西南学院大学聖書植物園は、大学開学50周年の記念事業として大学同窓会の寄付金を基に1999年11月に開園。大学の全キャンパスに展開されており、聖書関連の植物が約100種生育されている。西南学院大学聖書植物園、<https://www.seinan-gu.ac.jp/shokubutsu/>
  - 11 総務省「令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」2021年8月、[https://www.soumu.go.jp/icmp/research/results/media\\_usage-time.html](https://www.soumu.go.jp/icmp/research/results/media_usage-time.html) (2021年12月21日閲覧)
  - 12 西南学院大学博物館おうちでせいなんワークショップ、<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/child/ws/index.html>
  - 13 2019年度企画展「文化財とともに生きていく」関連ワークショップ。大きなレンガマグネットを積みあげてジョージくんを完成させる「ジョージくんのわくわくパズル」、塗り絵を館内展示する「ジョージくんぬりえ」を実施（2020年2月3日～4月3日）。
  - 14 北海道博物館「おうちミュージアム」の参加館一覧より、<https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/ouchi-museum-list/> (2021年12月22日閲覧)
  - 15 渋谷美月「大きなコミュニティとなったおうちミュージアム」『博物館研究』55巻、10号、pp.21-25、北海道博物館、2020年。
  - 16 2019年4月～9月までの来館者数は5895人。2021年4月～9月までの来館者数は1821人。
  - 17 西南学院大学博物館YouTube、[https://www.youtube.com/channel/UCT1nBPjD6PbHo\\_iIROs2ng](https://www.youtube.com/channel/UCT1nBPjD6PbHo_iIROs2ng)
  - 18 西南学院大学博物館でも実施。2021年度特別展「宣教師とキリシタン」の関連イベントとして、Web会議システムのZoomを利用したオンライン講演会「イエズス会の霊性と教育」(2021年11月20日)を開催した。